



## 平成 23 年 12 月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 23 年 8 月 3 日

上場会社名 オプテックス株式会社

上場取引所 東

コード番号 6914 URL <http://www.optex.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 徹

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 東 晃 (TEL) 077-579-8000

四半期報告書提出予定日 平成 23 年 8 月 11 日 配当支払開始予定日 平成 23 年 9 月 5 日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 23 年 12 月期第 2 四半期の連結業績(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23 年 12 月期第 2 四半期	9,323	14.2	931	23.0	1,061	42.4	583	38.2
22 年 12 月期第 2 四半期	8,164	12.5	756	697.7	745	384.7	422	663.1

	1 株 当 たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23 年 12 月期第 2 四半期	35.26	35.24
22 年 12 月期第 2 四半期	25.51	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23 年 12 月期第 2 四半期	22,187	18,399	77.8	1,042.30
22 年 12 月期	21,405	17,925	78.6	1,016.57

(参考)自己資本 23 年 12 月期第 2 四半期 17,251 百万円 22 年 12 月期 16,826 百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22 年 12 月期	—	15.00	—	15.00	30.00
23 年 12 月期	—	15.00	—	—	—
23 年 12 月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 : 無

### 3. 平成 23 年 12 月期の連結業績予想(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	20,400	17.3	1,800	5.5	1,900	7.8	1,100	12.1	66.46

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

23年12月期2Q	16,984,596株	22年12月期	16,984,596株
23年12月期2Q	432,897株	22年12月期	432,662株
23年12月期2Q	16,551,806株	22年12月期2Q	16,552,232株

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる場合があります。なお、上記業績予想に関する事項は、【添付資料】P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、中国やインドをはじめとする新興国の成長や、各国の景気刺激策の効果による緩やかな景気回復が見られたものの、米国の経済回復の鈍化や、くすぶるヨーロッパの財政問題など予断を許さない状況が続きました。

当社グループをとり巻く環境におきましては、国内外の製造業をはじめとする企業の設備投資が回復してきており、需要は底堅く推移いたしました。震災の影響によるわが国経済の一時的な混乱や、円高の進行など、先行き不透明感が強まりました。

なお、当該震災による当社グループの業績への影響は、軽微なものに留まっております。

このような状況の下、当社グループは「生産性倍増」を経営方針に掲げ、経費抑制を軸とする効率化を徹底するとともに、新市場の開拓や、新製品の拡販等による既存市場の活性化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、93億23百万円と前年同期に比べ14.2%の増収となりました。

利益面につきましては、震災による影響を見極める必要があったため、研究開発費などの投資を慎重に行ったことにより、営業利益は9億31百万円（前年同期比23.0%増）、為替差損等の営業外費用が前年同期に比べ減少したこともあり、経常利益は10億61百万円（前年同期比42.4%増）、四半期純利益は5億83百万円（前年同期比38.2%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

当社グループは、第1四半期連結累計期間よりセグメント区分の変更を行っております。セグメント情報の開示における事業区分に関連する事項については、「3. 四半期連結財務諸表（5）セグメント情報」に記載のとおりであります。

なお、前年同期比較にあたっては、前年同四半期連結累計期間分を変更後のセグメントに組み替えて行っております。

#### ① センシング事業

当社グループの主力事業であるセンシング事業は、売上高59億60百万円（前年同期比12.9%増）、営業利益5億1百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

防犯関連につきましては、世界市場でも高いシェアを有する屋外警戒用の防犯センサが、主力のヨーロッパ市場を中心に堅調に推移したことや、韓国をはじめとするアジア市場において、各種防犯センサが好調に推移したこと等により、売上高41億14百万円（前年同期比12.9%増）となりました。

自動ドア関連につきましては、主力の国内市場において、自動ドアの設置台数が堅調に推移したことに伴い、自動ドア用センサの販売が好調に推移し、海外においても欧米の自動ドア用センサ市場において着実にシェアを伸張したことにより、売上高15億38百万円（前年同期比11.0%増）となりました。

#### ② F A事業

F A事業は、ヨーロッパ及び中国を中心とするアジア地域において、景気回復による製造業の設備投資が拡大していることに伴い汎用機器が堅調に推移し、国内においても三品業界向けに加え、液晶関連業界など特定用途向けにアプリケーション機器が好調に推移しました。その結果、売上高23億95百万円（前年同期比16.6%増）、営業利益3億5百万円（前年同期比52.3%増）となりました。

#### ③ 生産受託事業

生産受託事業は、受託製品数量が減少したことにより減収となり、その結果、売上高は2億36百万円（前年同期比13.1%減）、営業利益15百万円（前年同期比84.6%減）となりました。

なお、生産受託事業の営業利益については、セグメント間の内部売上の影響を多分に受けるため、当該内部売上が減少したことにより、営業利益は前年同期に比べ減少幅が大きくなっております。

<参考>

・海外売上高

当第2四半期連結累計期間（自平成23年1月1日至平成23年6月30日）

	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	計
I 海外売上高（百万円）	860	3,485	1,213	435	5,995
II 連結売上高（百万円）	—	—	—	—	9,323
III 海外売上高の連結売上高に占める割合（%）	9.2	37.4	13.0	4.7	64.3

（注）1. 地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米 …………… 米国、カナダ

(2) ヨーロッパ …… ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イタリア

(3) アジア …………… 中国、香港、台湾、韓国

(4) その他 …………… オセアニア、アフリカ、南米

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高（ただし、セグメント間の内部売上高を除く）であります。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は221億87百万円となり、前連結会計年度末と比べ7億81百万円増加しました。これは主に受取手形及び売掛金や有価証券の増加等により流動資産が5億5百万円増加したことによるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は37億87百万円となり、前連結会計年度末と比べ3億7百万円増加しました。これは、主に支払手形及び買掛金や賞与引当金の増加等により流動負債が2億64百万円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は183億99百万円となり、前連結会計年度末と比べ4億74百万円増加しました。これは主に利益剰余金が3億35百万円、為替換算調整勘定などの評価・換算差額等合計が90百万円それぞれ増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比較して3億10百万円減少し、60億32百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は6億27百万円（前年同期は10億96百万円の獲得）となりました。これは主に法人税等の支払（4億49百万円）、売上債権の増加（2億87百万円）による資金の減少があったものの、税金等調整前四半期純利益を10億62百万円確保したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は6億94百万円（前年同期は7億45百万円の使用）となりました。これは主に資金運用に伴う有価証券並びに投資有価証券の取得・売却（差引支出5億32百万円）及び有形固定資産の取得による支出（1億61百万円）によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は3億円（前年同期は1億21百万円の使用）となりました。これは主に配当金の支払（2億48百万円）によるものであります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

平成23年12月期第2四半期累計期間の連結業績予想につきましては、利益面において前回予想値を上回り差異が生じたため、平成23年7月27日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表し、業績予想を修正しました。

なお、平成23年12月期通期の連結業績予想につきましては、為替相場の先行き動向が不透明であることに加え、「中期経営計画」達成に向けた新製品開発や、販売促進を積極的に推進することに伴い、研究開発費等の経費の計上が第3四半期以降見込まれることから、現時点では修正せず、平成23年2月10日に公表した数値を据え置くこととします。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ① 簡便な会計処理

##### (一般債権の貸倒見積高の算定方法)

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

##### (棚卸資産の評価方法)

当第2四半期連結会計期間末の棚卸高の算定に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法によっております。

##### (固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

##### (法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

当第2四半期連結累計期間における法人税等の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

また、一部の重要性の乏しい連結子会社については、上記に替えて、税引前四半期純利益に前連結会計年度末の損益計算書における税効果会計適用後の法人税等の負担率を乗じて算定しております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、且つ一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

#### ② 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### (資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

なお、これによる損益への影響はありません。

#### (表示方法の変更)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,598	6,343
受取手形及び売掛金	4,034	3,717
有価証券	1,802	1,182
商品及び製品	1,673	1,579
仕掛品	64	59
原材料及び貯蔵品	1,016	830
繰延税金資産	416	399
その他	473	462
貸倒引当金	△28	△29
流動資産合計	15,051	14,545
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,230	1,264
機械装置及び運搬具（純額）	197	198
工具、器具及び備品（純額）	310	264
土地	1,203	1,203
建設仮勘定	15	5
有形固定資産合計	2,957	2,936
無形固定資産		
のれん	127	175
その他	451	465
無形固定資産合計	578	641
投資その他の資産		
投資有価証券	2,551	2,159
繰延税金資産	756	779
その他	340	389
貸倒引当金	△48	△46
投資その他の資産合計	3,599	3,281
固定資産合計	7,135	6,859
資産合計	22,187	21,405

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間末  
(平成23年6月30日)前連結会計年度末に係る  
要約連結貸借対照表  
(平成22年12月31日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,038	798
短期借入金	174	203
未払法人税等	440	456
繰延税金負債	5	9
賞与引当金	84	75
役員賞与引当金	7	—
その他	742	685
流動負債合計	2,493	2,228
固定負債		
繰延税金負債	68	77
再評価に係る繰延税金負債	6	6
退職給付引当金	764	734
役員退職慰労引当金	437	416
その他	17	17
固定負債合計	1,294	1,252
負債合計	3,787	3,480
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,798	2,798
資本剰余金	3,653	3,653
利益剰余金	12,654	12,318
自己株式	△537	△537
株主資本合計	18,567	18,232
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△18	△37
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	△1,307	△1,379
評価・換算差額等合計	△1,315	△1,406
新株予約権	3	4
少数株主持分	1,144	1,094
純資産合計	18,399	17,925
負債純資産合計	22,187	21,405



(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)
売上高	8,164	9,323
売上原価	3,885	4,502
売上総利益	4,279	4,821
販売費及び一般管理費	3,522	3,890
営業利益	756	931
営業外収益		
受取利息	44	34
持分法による投資利益	3	14
為替差益	—	3
受取賃貸料	7	9
その他	42	90
営業外収益合計	97	151
営業外費用		
支払利息	1	1
投資事業組合運用損	20	6
為替差損	69	—
賃貸費用	12	9
その他	4	3
営業外費用合計	108	21
経常利益	745	1,061
特別利益		
固定資産売却益	2	3
持分変動利益	—	0
投資有価証券売却益	0	0
貸倒引当金戻入額	2	—
特別利益合計	5	3
特別損失		
固定資産除却損	1	2
投資有価証券評価損	1	—
減損損失	26	—
特別損失合計	29	2
税金等調整前四半期純利益	721	1,062
法人税、住民税及び事業税	239	433
法人税等調整額	10	△21
法人税等合計	250	411
少数株主損益調整前四半期純利益	—	651
少数株主利益	48	67
四半期純利益	422	583

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	721	1,062
減価償却費	233	208
のれん償却額	21	21
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	24	30
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	22	21
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	13	9
受取利息及び受取配当金	△54	△46
支払利息	1	1
為替差損益 (△は益)	2	△4
持分法による投資損益 (△は益)	△3	△14
投資有価証券売却及び評価損益 (△は益)	0	△0
固定資産除売却損益 (△は益)	△0	△1
減損損失	26	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△297	△287
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△439	△256
仕入債務の増減額 (△は減少)	395	198
その他	206	85
小計	868	1,028
利息及び配当金の受取額	48	51
利息の支払額	△1	△2
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	181	△449
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,096	627
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△1,247	△1,077
有価証券の売却及び償還による収入	949	1,198
投資有価証券の取得による支出	△480	△667
投資有価証券の売却による収入	160	13
有形固定資産の取得による支出	△118	△161
有形固定資産の売却による収入	4	3
無形固定資産の取得による支出	△13	△28
貸付けによる支出	△10	△11
貸付金の回収による収入	9	9
その他	—	25
投資活動によるキャッシュ・フロー	△745	△694
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	150	△28
長期借入金の返済による支出	△6	—
少数株主からの払込みによる収入	—	4
配当金の支払額	△248	△248
少数株主への配当金の支払額	△16	△28
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△121	△300
現金及び現金同等物に係る換算差額	△199	57
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	29	△310
現金及び現金同等物の期首残高	6,447	6,343
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,476	6,032

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)

	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	計
I 海外売上高 (百万円)	689	3,157	980	424	5,251
II 連結売上高 (百万円)	—	—	—	—	8,164
III 海外売上高の連結売上高に占める割合 (%)	8.4	38.7	12.0	5.2	64.3

(注) 1. 地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米 …………… 米国、カナダ

(2) ヨーロッパ …… ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イタリア

(3) アジア …………… 中国、香港、台湾、韓国

(4) その他 …………… オセアニア、アフリカ、南米

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高 (ただし、セグメント間の内部売上高を除く) であります。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品及びサービスの種類別に事業を展開しており、「センシング事業」、「FA事業」及び「生産受託事業」の3つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品群及びサービスは次のとおりであります。

セグメントの名称	主な製品群及びサービス等
センシング事業	防犯関連、自動ドア関連、計測関連、交通関連
FA事業	ファクトリーオートメーション関連
生産受託事業	電子機器受託生産サービス

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	センシング 事業	FA事業	生産受託 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,960	2,395	236	8,591	732	9,323	—	9,323
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11	—	1,381	1,393	19	1,412	△1,412	—
計	5,971	2,395	1,618	9,984	751	10,736	△1,412	9,323
セグメント利益	501	305	15	823	104	927	3	931

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業であり、客数情報システム・電子部品の開発及び販売、スポーツクラブの運営等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額3百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。